

空き家を活用した人口減少対策

広島修道大学 広島修道大学 国際コミュニティ学部 木原 一郎

参加学生：地域行政学科 3年次生 4名、2年次生 18名

1. 事業目的

安芸太田町は人口減少が顕著であり、人口減少率は県内2位の10.8%、また空き家率も大変高くなっている。これらの安芸太田町の地域課題に着目し、2021年度から活動を継続している。これまで2年間空き家対策と人口減少対策の両方に有効な方策の立案を目指して活動してきた。その中で実践的に検証することで仮説を深化させることができた。昨年度の取り組みや学生の気づきから得た仮説を今年度も実践的に検証する。仮説は具体的に以下の通りである。

仮説①：多様な世代に対して、また様々な場所での「場づくり」を通して、関係人口やコミュニティの醸成を図ることが有効。

仮説②：既存のコミュニティとの連携も図り、そのつなぎ役は学生が最適。

仮説③：関係人口やコミュニティの形成ができれば拠点が必要。

であり、3つの仮説を実践的に検証する。

2. 実施内容

以下学生からの報告書より抜粋し活動日毎の内容を記載する。

(1) 仮説①、仮説②の検証のための調査活動 (2023年8月5日)

仮説の検証のため地域コミュニティの構成や現状を調査するために、地域の行事を参与観察を行った。地域のお祭りを参与観察して、現状地域のコミュニティの現状や「場づくり」の分析をした。非日常における地域の変化やコミュニティの関わりを知ることができた。参与観察することで現状を把握することができ、コミュニティ醸成のための試験的取り組み案を作成できた。



(2) 仮説①仮説③の検証のための調査活動 (2023年10月13日)

安芸太田町の遊休施設となっている津浪小学校と鍛冶屋館の視察を行った。
安芸太田町の職員さんにも同行してもらい各施設の制度や特性等を把握することができた。
また両施設とも改修可能範囲なども把握でき、空き家利用モデルとしてどのように適しているか判断することができた。



津浪小学校と鍛冶屋館の視察の様子

(3) 仮説①の検証のための調査活動 (2023年10月27日)

鍛冶屋館のイベント利用と改修工事可能条件などの打ち合わせ
今回から企画課だけでなく、総務課財政管財系の池野様もご参加されるとのことで、初回顔合わせということもあり、対面で実施した。安芸太田町所有の鍛冶屋館を拠点候補として取り扱うことはできるとのことであった。ただその鍛冶屋館は現在売却予定であったため、考えている拠点の利用方法や改修計画を年内に提出し、安芸太田町の方で検討・審議していただくことになった。
また11/18に実施するコミュニティを醸成するための試験的取り組みについて、協議することができた。

(4) 仮説②、③の検証：太田川交流館かけはしでのイベント (2023年11月18日)

11月18日に行われる吉水園一般公開に合わせて太田川交流館かけはしで燈籠作りを行い、日が暮れた時に吉水園前の広場に飾る活動を地域の人と共に行った。昨年度実施してきたコミュニティカフェの取り組みを踏襲・発展させて行なった。
イベントの準備から企画・運営を地域の方々と一緒に行うことで新たなコミュニティや地域愛を

深めること、継続的な実施に向けた足がかりにしてもらうことができた。吉水園一般公開に合わせて太田川交流館かけはしでの燈籠作り、日が暮れた時に吉水園前の広場に飾る活動を地域の方とともに行うことで、既存のコミュニティとの連携も図ることができた。

対話の中から、貸しスペースとは違った「拠点」の必要性と学生が地域コミュニティとのつなぎ役になる有効性は明らかになった。



視察、打ち合わせの様子・燈籠作り

(5) 仮説①、②、③の検証：作業確認下見・周辺店舗への挨拶（2024年1月19日）

鍛冶屋館の掃除作業の下見と確認、掃除作業に伴う人の出入りがあるため事前に周辺店舗へ挨拶を行った。

実際に掃除する対象建物の様子を見ながら、当日の段取りをすることができた。

周辺の方々に挨拶をし、事前に注意点などを伺うことができた。

また当日、見学希望者への案内などの情報を掲出できる場所を確認し、効果的な準備ができた。



視察の様子

(6) 仮説①、②、③の検証：作業確認下見・周辺店舗への挨拶（2024年1月20日）

鍛冶屋館の掃除作業の下見と確認、掃除作業に伴う人の出入りがあるため事前に周辺店舗へ挨拶を行う。

掃除作業をし、不要なものを移動させた。

写真撮影をして、改修計画を精緻なものにした。

掃除の最中に訪れた関係者へヒアリングを行なった。



掃除の様子と事後の様子

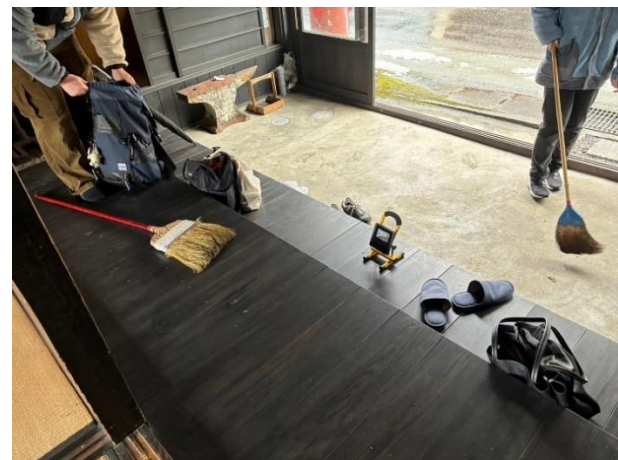
(7) 来年度にむけての検討・打ち合わせ（2024年1月31日）

鍛冶屋館の掃除を行い、隣の鍛冶場だった部分の掃除も行った。

隣の鍛冶場だった部分も掃除を通して、敷地全体の規模感を掴むことができた。

また通りからの新たな視点も発見することができた。

二つの掃除を通して、長期的な計画を立案することができた。



鍛冶屋館で行った清掃活動の様子

(8) 業務委託について

仮説③について、専門家との協議・検討も行った。

空き家や公共空間の利活用において、関係人口や地域コミュニティを醸成するための、空間的知見の提供・専門的観点からの提案等の学生との協働の業務を委託した業務委託内容は以下のとおりである。

- ① 対象建物・空間の建築的現状調査(構造体や内装などの経年劣化や使用可能の判断など)
- ② 学生の提案(コミュニティカフェでの調査をまとめたもの)に沿って、空間仕様や利用方法の検討・提案
- ③ 専門的知見から大学生が独自に取り組むことのできる部分、できない部分の整理と大学生が独自に取り組むことのできる空き家改修方法または家具・設備作成方法の提案
- ④ ①、②、③の取りまとめ資料の作成(取りまとめ自体は学生と協働)



業務委託成果品より抜粋

3. 事業実施による成果・効果

仮説①：多様な世代に対して、また様々な場所での「場づくり」を通して、関係人口やコミュニティの醸成を図ることが有効。

仮説②：既存のコミュニティとの連携も図り、そのつなぎ役は学生が最適。

仮説③：関係人口やコミュニティの形成ができれば拠点が必要。

それぞれの仮説に対して参与観察・実践・協議などを通して、有効性は明らかになった。中でも仮説①、②について、地域の人が地域のために行うイベントを地域イベントと定義し、参加した学生は以下のようにまとめている。

「場づくり」として必要な要素		持続させていく上で理想的な状況
1 参加者同士での交流がある	→	・学校や学区単位を基盤にした交流がある
2 印象に残る要素がある	→	・印象に残る要素が二つ以上ある ・自分が参加できる要素がある。
3 イベント運営に関わってる人が見える	→	・人数が多い ・複数の組織が関わっている
4 幅広い属性の参加がある	→	・子供、学生世代が参加している ・運営側への学生の参加があるとなお良い

また仮説③について、専門家との協議などを通して、来年度の方針や予算面も明確にすることができ、安芸太田町に拠点をベースとしたコミュニティづくりを実践していく段階まで準備することができた。